

ベランダ菜園だけじゃない 都会の中心で 緑とふれあう方法



アメリカ・ニューヨーク市内にある屋上菜園から望む風景

公共の場所でも栽培を
楽しめる

市民農園で畑を借りたり、自宅の庭やベランダで小さな菜園を作ったり……。都市部の住民が植物を育てようとする場合、農地が少ないぶん、どうしてもできることは限られてしまいます。それは世界の大都市でも同様ですが、日本では見かけないユニークな取り組みもあります。

パリ市は、二〇一五年六月から、公共スペースを個人や企業、NPO法人(特定非営利活動法人)などに貸し始めました。場所は街路樹の下や歩道脇に置かれた植木鉢などさまざまです。公共スペースである以上、一定の制約があります。違法植物と他の種を駆逐する植物は栽培禁止。農薬と化学肥料も使えません。また、生産物の自家消費はできませんが、販売は不可。個人やNPOは看板を立てて、そこが自分の栽培地であることを表示できますが、企業の場合は宣伝になるので、企業名の表示は禁止です。



フランス 左/種まきワークショップの様子。右/公共スペースで栽培される植物。種や球根、土は市が無料で配布する

栽培方法がわからない人は、市営の施設「庭仕事の家」でアドバイスを受けるほか、NPOによる種まきのワークショップなどもあります。

ワークショップに参加した市民のジュール・サレさんは、「環境問題に目覚め

て食生活を変えたいと思い、菜園に興味を持ったが、種から野菜をどうやって育てればいいのか知らなかった」と言います。子どもに学ばせたい、と小学生の子どもを連れてきた母親もいて、活況を呈しています。

これまでも市民農園はありましたが、農園の一角に限られているうえ、会員以

外は中に入れませんでした。公共スペースの開放は、市民の緑や土にふれたいという思いを、新たに盛り上げているようです。

都市部の
地産地消
ビジネス

自分で栽培しなくても、とりたての野菜を手に入れる取り組みもあります。カナダ第二の都市モントリオールでは、地元の企業ルファ・ファームズが、建物の屋上を丸ごと園芸施設にして、近隣住民の食生活

カナダ 屋上施設では、水やエネルギーを効率よく循環させる仕組みが採用されている。ここでとれる野菜に限らず、近隣の農家などの生産物も配達し、地産地消を進めている



を担おうという取り組みを進めています。

都市の中心部でも、新鮮な農作物を消費者に直接届けたいと始まったプロジェクトですが、一年に世界でも類を見ない規模の屋上園芸施設が完成しました。今は二つの施設から、新鮮な野菜を届けています。

農作物は養液栽培で育てられた七十種類以上の葉物野菜や、トマト、ナス、カリフラワー、パプリカ、ハーブなどさまざま。

ウェブサイトでメンバー登録すると、ルファ・ファームズの農作物だけでなく、近隣の農家やパン屋など約百五十の地元の協力者に、野菜やパン、肉類、魚介類、スパイスなどの商品を注文することができます。農産物は、配達当日に収穫され、市内三百か所以上の決められた場所へ配達されます。主な購入者は近郊の住人、レストランのシェフ、市内に仕事にくる人など約四千五百人。都会にながら新鮮で質の高い食品を、効率よく手に入られるシステムが整っています。

高層ビルの
住民でも
緑に触れて



香港 ビルとビルの間に設置されたガーデン。400香港ドル(約6000円)で4か月間農地を借りることができる。人気が高く、ほぼ抽選になる

港市民の緑化への興味を高め、街に緑を増やそうという目的で始まりました。

二十三か所にガーデン(農園)があり、人口密度の高い香港島にも合計七百万メートルの施設があります。必要な道具はすべてそろっており、栽培講習もあるのが初心者にも人気です。開園時間は毎日午前八時から午後六時まで。専属のガーデナーがいるので、枯らしてしまうといった心配はありません。

家賃が高い香港では、約七百万の人口の九割は、高層ビル住まい。バルコニーがなく、植物を育てたいけれど場所がない、という市民のために「コミュニティ・ガーデニングプログラム」があります。

これは香港政府の「緑化香港運動(グリーン・ホンコン・キャンペーン)」の一環。学校教育やコミュニティの活動を通じて、香